

令和 4 年第 1 回定例会

美 郷 町 議 会 会 議 録 (第 3 号)

令和 4 年 3 月 1 0 日

美 郷 町 議 会

令和 4 年 1 回美郷町議会定例会会議録（第 3 日）

令和 4 年 3 月 1 0 日（木曜日）

◎開会日時 令和 4 年 3 月 1 0 日 午前 1 0 時 0 0 分 開会
◎散会日時 令和 4 年 3 月 1 0 日 午前 1 1 時 3 8 分 散会

◎出席議員（11名）

1 番	若杉 伸児君	2 番	早川 節夫君
3 番	中田 武満君	4 番	兒玉 鋼士君
5 番	中嶋奈良雄君	6 番	川村 義幸君
7 番	那須 富重君	8 番	小路 文喜君
9 番	甲斐 秀徳君	10 番	川村 嘉彦君
11 番	山本 文男君		

◎欠席議員 な し

◎欠 員 な し

◎会議録署名議員 7 番 那須 富重君 8 番 小路 文喜君

◎事務局職員氏名 事務局長 小田 広美君 書記 森川 晴君

◎説明のための出席者職氏名

町長	田中 秀俊君	副町長	藤本 茂君
教育長	大坪 隆昭君	会計管理者	三桝 治君
総務課長	下田 光君	税務課長	甲斐 武彦君
企画情報課長	田常 浩二君	町民生活課長	田村 靖 君
健康福祉課長	黒田 和幸君	建設課長	林田 貴美生君
農林振興課長	松下 文治君	政策推進室長	沖田 修一君
教育課長	石田 隆二君	地域包括医療局事務長	黒木 博文君
南郷地域課長	川野 一郎君	北郷地域課長	泉田 浩文君

◎会議の経過 別紙のとおり

令和 4 年 第 1 回 美 郷 町 議 会 定 例 会

議 事 日 程 (第 3)

令和 4 年 3 月 1 0 日

午 前 1 0 時 開 議

日 程 第 1 一 般 質 問

7 番 那 須 富 重 議 員

- 1 . 医 療 提 供 体 制 に つ い て
- 2 . 住 宅 政 策 に つ い て
- 3 . 特 A 米 の 価 格 向 上 に つ い て

2 番 中 嶋 奈 良 雄 議 員

- 1 . 田 畑 の 耕 作 放 棄 地 の 対 策 に つ い て

会 議 録

令和4年3月10日
午前10時開議

【事務局長 小田 広美】

「一同起立・礼」・・・おはようございます・・・御着席してください。

【議長 山本 文男】

改めまして、おはようございます。

定例会三日目であります。傍聴の方に対しまして敬意と感謝の意を表します。ありがとうございます。

本日もよろしくお願いいたします。

【議長 山本 文男】

ただいまの出席議員は11名であります。

【議長 山本 文男】

これから本日の会議を開きます。

本日の議事日程はお手元に配付の議事日程表のとおりであります。

なお、広報用の写真撮影の申出がありましたので、これを許可します。

【議長 山本 文男】

日程第1、一般質問。

今回、一般質問の通告のありました議員は6名であります。

昨日は4名の質問を終えていますので、本日は残り2名の一般質問を行います。

通告順に一般質問を行います。

通告順に質問を許します。

7番、那須 富重議員の登壇を許し、1問目の発言を許可します。

【7番 那須 富重】

議長。

【議長 山本 文男】

7番、那須 富重議員。

【7番 那須 富重】

おはようございます。2年ぶりの一般質問であります。通告順に従いまして質問に入りたいと思います。

まず1番目に、医療提供体制についての質問であります。

コロナ禍により医療従事者感染症対策の最前線の業務に携わる方々に心から敬意と感謝を申し上げるものであります。昨日の一般質問でも医療の質疑が行われましたけれども、今日は私なりに質問したいと思います。

今回の選挙では、南郷診療所の無床化の件で町長もそうだったと思いますけれど

も、私たちも一部の有権者や応援をしていただいている人たちからも大変、厳しい避難の言葉を聞かされました。

特に、私は現職だったこともありまして、遊説のときに、「南郷の議員が3人もおってどうしたもんや」と、それから、「どんげでもでけんかったつや」とか、それから「もう悪なっても当てにならん。南郷には住めんが」というような非常にそういった言葉がいまだに耳についております。今日は町長にその恨みつらみを申し上げるわけではございませんけれども、もし出たときには御理解いただきたいと思います。

それでは早速、お尋ねをします。

現在の西郷病院、北郷診療所、南郷診療所の医療提供体制は適正であると御認識されているか、町長にお伺いをいたします。

【議長 山本 文男】

町長の答弁を許します。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

おはようございます。昨日の小路議員のほうから医療提供体制のことで質問を受けいたしました。

この医療提供体制は万全かというか、最上の策という問いであります。今、考えられる中においては最上の策であるということだと、私は認識をしております。昨日も言いましたように、1つの国保病院と2つの診療所をしっかりと維持していくということが、今後、私に課せられた責務ということでもあります。

やはりほかの町村から見ると、1つの町に3つの病院があるということ自体が非常に不思議に見られるというかそういう中ではあります。しっかりと維持していくことが私の責務だと思っておりますので、今後もこの体制を続けていきたいと思っております。

以上です。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【7番 那須 富重】

議長。

【議長 山本 文男】

7番、那須 富重議員。

【7番 那須 富重】

五ヶ瀬町の隣の熊本県側のほうに山都町がありますけれども、ここは美郷町と同

様に平成１７年に蘇陽町、矢部町、それから清和村の２町１村が合併してできた町があります。

この町には人口１万５，０００人をカバーする山都町包括医療センターそよう病院があります。本町議会でも令和２年１月２４日に視察研修に行っていました。５人の医師体制で週１日ですが、ほかにも３つの診療所に医師を派遣しているこの病院の総院長は水本先生で、現在７０歳を超える医師であります。週５日午前の診察とエコー、胃カメラ、大腸カメラを担当する業務に当たられる先生で、時には交替勤務にも入るという方であります。

充実した医療提供体制から、この病院は椎葉村や五ヶ瀬町の宮崎県側の町村の患者の多くが利用しておりまして、企業の健康診断などもこのそよう病院で行っているようであります。大変羨ましく思ったところでした。

翻って美郷町はということになりますと、直近では南郷診療所の定着医が患者の不評を買って辞表を出し辞めてしまいました。その後に、南郷診療所に派遣の医師が９時間からの診察開始時間に遅れることが常態化しておりまして、１０時、１１時開始が当たり前で、時にはとうとう午後になりまして、患者は一旦、昼食を取りに家に帰って、また来る羽目になったという話を直接、私は伺いました。

昨年の決算委員会のときでしたか、私はオブザーバーでしたので終了後、このことを直接、金丸総院長に話しましたが、その後、月曜日のみ院長の東先生が南郷診療所で診察することになり、安心したのもつかの間、一方の遅刻の先生は相変わらずということでした。

この医師は、宮崎から通勤しており、一旦、西郷病院に行き、自分の患者を診て南郷診療所に行っていたということですが、こういったこの医師の派遣体制について、町長はどういうふうな感想をお持ちでしょうか。

【議長 山本 文男】

町長の答弁を許します。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

そういう話を聞いたときに、金丸先生を呼んでしっかりとした体制の中で勤務時間を守るようにという話をいたしました。でないと、患者様が早く来てずっと待ってとうとうという話も聞きましたので、これは何のために診療所を開けているのか分からないということになりますので、その先生に対してしっかりと時間を守るようにと。

救急的なものがあれば、それは分かるんですけど、それが慢性化するということであると、非常に町民の医療提供にますます輪をかけて不審に思うということでもありますので、そこはないようにということで厳しく言ったところでもあります。

以上です。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【7番 那須 富重】

議長。

【議長 山本 文男】

7番、那須 富重議員。

【7番 那須 富重】

この地域包括医療局の金丸総院長は、西郷病院へ週一日か二日の勤務だったと聞いておりましたが、実際にそうだったのでしょうか。

そうだとすれば、週1日の勤務で、一日、二日の勤務で包括医療の管理をするには大変無理があると思いますが、いかがでしょうか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

今は多分、週1木曜日だけになっていると思いますが、無理があるということではなくて、やはり今までの経験といろいろな形の中で病院を見てますので、無理ではなかろうという判断は私はしております。

また、先生のほうは医療というかそういう部分と、加えてやはりいろいろな委員をしておりますので、情報が非常に早いという部分がありますので、そういう意味で、うちの医療体制という部分に大きく貢献をしていただくという面で非常に助かっていると私は判断をしております。やはりそういう時期、定着医をしっかりと見つけた中で交代をする時期が来るのかなあというふうには考えておるところでもあります。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【7番 那須 富重】

議長。

【議長 山本 文男】

7番、那須 富重議員。

【7番 那須 富重】

私は、このそよう病院の水本先生の勤務の在り方とこの金丸総院長の勤務の在り方、これを比較しますと、あまりにも違いが大き過ぎると。そよう病院の水本先生のもとには熊大の附属病院、熊大からも率先して研修医が派遣されてくるといいう実態があります。こちらのほうで美郷町の病院にあっては、なかなか医師が

いない。医師がいないということでいつも話をされております。

私たちも、町長も一緒に行かれましたが、県のほうに要望活動に行って福祉保健部のほうに「また先生お願いします」ということで、何度か足を運びましたけれども、ああいうときでもやはり自信を持ってやっていただけるといような先生を派遣していただければというふうに言いたいんですけども、こちらのほうが言うことと向こうの部長さんなんか答える反応にちょっとやっぱりギャップがあるような感じがしてたんですね。

結局、県のほうで受けている感じでは、「私たちはそんなふうに変だとは思っておりません」ということで、こちらのほうでは金丸総院長からいつも「医師がいない、医師がいない。私も大変なんだ」ということで聞かされてるもんですから、私たちは本当にもう、本当にこれは行かなきゃ大変だというつもりで行って、お願いをしてきたつもりであります。

そこら辺りのところのギャップといいますか、そこ辺りのことをしっかりとやはり日頃から本当に話して、埋めて、距離を詰めたと思うんですけども、何せコロナ禍でもありますし、病院のほうへの出入りの自由ありませんということで、なかなかそういうこともできませんが、できればそういう機会をこれからはコロナが明ければ、頻繁につくって距離を詰めていって、膝を詰めてしっかりと協議をして進めていかなくちゃいけないという自覚でおりますけれども、町長、いかがでしょうか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

おっしゃるとおり今の喫緊の課題は「医師の確保」ということであります。それも定着医ということで、この病院を3つ回すためにはやはりその「派遣、派遣」という部分はいつ崩れるか分かりませんので、その先生たちのパイが少なくなるということになると、こういう形にはならないだろうと推察されます。

そしてまた、働き方改革等々が出てくれば、非常に難しくなってくるということが想定されますので、この1年間やはり議員さん皆さんと一緒に、その派遣医師はもとより、しっかりとお願いするということをお願いして、定着医をどうしても見つけたいと。1人か2人いれば、しっかりとした医療提供体制ができてくるいうことを思っていますので、この定着医を見つけることに全力を尽くすという気持ちで、ほかの仕事を放ったらかしてでも、やはりこの医師は見つけないければならないと私は思っておりますので、そういう意気込みの中で県福祉保健部の医療薬務課の課長等としっかりと話をしながら、医師の確保に努めていきたい、そういう思いであります。

そして、その先生が、やはりその先生の医療の技術もさることながら、やはり人間性かなあという部分もありますので、やはりそこ辺も含めたしっかりとしたお医者さんを見つけることがうちの町民に対しての安全安心の提供できる医療体制が構築できるというふうに判断をしております。

以上です。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【7番 那須 富重】

議長。

【議長 山本 文男】

7番、那須 富重議員。

【7番 那須 富重】

南郷の前任の所長、定着医の先生が辞められて、その後にこちらのほうから所長として今の派遣が行かれているわけですが、その後に定着医を探さなくちゃいけないと思うんですね。その定着医を探す方法は、どういった方法で探されているのか、お聞かせください。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

いろいろなところといいますか、結局、宮大の医学部、それと県のほうの医療業務課、それとあとはネットで厚生労働省が出してる、出してるというか認可してるそういう事業団体がありますので、そこに載せていると。3つくらいあるんですけど、そこへ載せてると。

それと、つてを頼って、宮崎県病院の先生に会ったりして、そういう先生はいないでしょうかということで、私独自で当たったりと。それと、区長さん等々を通してそういう先生、こちらの出身の先生方はいないかという部分での情報、そういうものを集めてやっていると。

なかなかそれでもこういう先生はおってもなかなかこちらにはまだ帰ってこれないというか、そういう話の中でやっております。

ですので、その方法がいいのかどうかという部分も問題なんですけど、やはりもう少しスピード感を持ってといいますか、そういう形の中でお医者さんを探す工面をしなければならないというふうに思っておりますので、何か議員のほうでいい知恵があったら、お貸しいただきたいなあとというふうには思うところであります。

以上です。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【7番 那須 富重】

議長。

【議長 山本 文男】

7 番、那須 富重議員。

【7 番 那須 富重】

この定着医がこちらのほうに就任されることが、本当にもう喉から手が出るくらい私たちも待ち望んでおるところであります。そういう環境をつくるためには、研修医がこちらに来たくなるような環境をつくらなくちゃいけない。そのための定着医ということでもあります。

またその節は、私たちもいろいろな対策をしながらやっていかななくちゃいけないかなと思います。金丸総院長がコロナ禍が明けてそういうことになれば、またそういったことも深く突き詰めて考えたいと思いますので、その節はまたよろしく願いいたします。

それから最近の保育所の園児のけががありました、この対応についてもそうですが、幸い大事に至らなくてこれはよかったんですが、これが命に関わるようなことであれば大問題となります。

当てにならない療養機関があれば、患者は離れてしまいますと同時に安心して住める環境としても問題があるという認識を持たれてしまいますので、この辺は本当にしっかりと管理をしていただくように、院長にはお願いしたいと思います。

また別の話になりますけども、これは現在、心臓病の患者さんが西郷病院で治療を受けております。その患者さんは12名おりますが、うち10名が南郷から通われていると。2名が西郷の患者さんです。

南郷の患者さんが言うんですが、やはりもう高齢で80歳近くの方が、80歳をもう超えている方もいるんですが、自分で今は運転して来てるんですけども、距離があっただんだん大変になったと。それと、このコロナ禍にありましてやはり移動の途中の心配があるということで、西郷までガソリンをわざわざ焚いていかんでも、先生が1日南郷に来てもらおうといいじゃないかというような話も出てるんですが。

これは事務長に話をしましたら、「これ、金丸院長の問題じゃないか」ということだったんですけども、取りあえずやはり美郷町の病院の件ですから、いろいろ南郷、西郷、北郷を管理するという点で、町長の考えをお聞かせください。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

そういう実態があるという話は少し聞いてたんですけど、なぜその診療所でできないかという話まで聞いてませんので、その件については少し総院長と話して、比重的に10人ということであれば、これが毎日という話でもないでしょうから、月1回とか。その病気というか、なかなか難しいところがあるという話はあるんですが、それで治療して何か証明を出して、そのお金を給付できるというような形になってやっているという内容でしょうから、高齢になってなかなか通院が難しいということであれば、また総院長に「何でそこでできないか」と。誰かが行って、そのときだけ診るということで、できないかというような話はしていきたいと。

やはり利便性をつくってほしいという話はしていきたいと思います。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【7番 那須 富重】

議長。

【議長 山本 文男】

7番、那須 富重議員。

【7番 那須 富重】

ぜひ進めていただきたいと思います。今、無床化になってしまって、本当に大変な思いをしておりますので、そういったことが少しでも出てくれば、また考え方も変わってくるかと思っておりますのでよろしくお願いします。

それから、4月1日から南郷の医師住宅のほうに住みまして診療所の勤務に当たるということで、地区の方も大変喜ぶと思えますけれども、そういう先生が南郷常駐で来られるという話です。

この先生の専門は何か、今お分かりでしょうか。

【地域包括医療局事務長 黒木 博文】

議長。

【議長 山本 文男】

地域包括医療局事務長。

【地域包括医療局事務長 黒木 博文】

二宮先生という方が来られるんですけど、南郷診療所の所長をやっていただくというような形になるかと思えます。

専門は精神科医です。

以上です。

【議長 山本 文男】

事務長の答弁が終わりました。

【7番 那須 富重】

議長。

【議長 山本 文男】

7番、那須 富重議員。

【7番 那須 富重】

もう一度、精神科医ですか。

ちょっと今、あまりにも驚いているんですが。

これ、南郷診療所、言ってみれば総合診療を携わる先生ですよね。あまり私たち

があれこれと言える立場ではないんですけれども、何とかやはり。できれば内科・外科総合診療を担当できる先生を期待しておったんですけれども、やはりこの先生しか採用に至らなかったわけですね。

【地域包括医療局事務長 黒木 博文】

議長。

【議長 山本 文男】

地域包括医療局事務長。

【地域包括医療局事務長 黒木 博文】

精神科医なんですけど、自治医大卒でありますし、総合診療はできます。

それと、椎葉とかいろいろなところで総合診療を経験してますので、37歳でありまして経験豊富ですから南郷診療所長として大丈夫だと思っております。

以上です。

【議長 山本 文男】

医療局事務長の答弁が終わりました。

【7番 那須 富重】

議長。

【議長 山本 文男】

7番、那須 富重議員。

【7番 那須 富重】

それを聞いて、今ちょっと安心しましたけれども、また先生には一生懸命に、できれば地域の方に親しんでいただいて、できるだけ長くいていただくことを私たちも勧めたいと思います。

それから次の診療所の公設民営化という点で私、今回上げておりましたけれども、この件について、何か町長なり考えられたことはないか、お伺いいたします。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

診療所において、公設民営ができれば非常にありがたいと。これが理想かなと思っております。

いろいろな費用といいますか、その維持する部分は公設ですので、こちらが負担してもそういうお医者さんが来ていただければ非常にいいかなと。

その最たるものが、議員さん皆さん御案内のとおり北郷の診療所です。横山先生という女医さんがいましたが、その先生が長きにわたって北郷の町民の健康を1

人で受けていたということで、北郷の町民にとっては公設民営という部分は非常になじみがあると。

地の利といいますか、延岡が近いという部分もあったんでしょうけど、入院やはそちらのほうでという話の中で公設民営がしっかりとなされたということでありますので、今後、お医者さんを見つけることが非常に厳しい状況の中で、そういう先生がいらっしゃればと。

ですので、やはりうちのホームページとかそういうものの中にも、またそういう厚労省が認めた事業者の募集の中にもやはりそういうものを入れてやっていきたいと。そういう先生がいれば、これに越したことはないというふうには思っております。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【7番 那須 富重】

議長。

【議長 山本 文男】

7番、那須 富重議員。

【7番 那須 富重】

財政的にも非常に厳しいということは私たちも分かっておりますので、できればそういう一般の病院の定着医の採用と、この公設民営と並行してでも何とかお話を進めていただきたいと思いますのですが、いかがでしょうか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

議員おっしゃるとおり、やはりそちらのほうもししっかりとやっていきたいと。医師を探す中で、そういう先生がいらっしゃれば、すぐ任せたいなあと思うんですけど、お医者さんなら誰でもいいという感覚はちょっとなくなったと、私自身が。お医者さんはお医者さんしかできないんですけど、やはりその前に人格というか、やはりそういうものも大切ななあという気がします。

特に、こういう中山間地域のお医者さんとしてはやはりお年寄りが多いものですから、寄り添うような先生に来てほしいなあと思っておりますので、そういう先生を求めながら、この公設民営が可能であるというか、そういう先生がいるかいなかでもう公設民営は決まってきますので、お金がかかろうと、やはりそれはそれでやっていく価値はあるというふうには思っております。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【 7 番 那 須 富 重 】

議長。

【議長 山本 文男】

7 番、那須 富重議員。

【 7 番 那 須 富 重 】

これからの安心安全の住環境のためにはこの医療提供体制というものは非常に最たるものであると思います。私たちが議員を目指したときには、やはり町民の社会福祉の向上、これが議員の最たるものであるということを、私も頭に入れて議員になっておりますので、その最たるところがこの医療提供体制の充実というところにあると思いますので、町長だけでなく私たちも汗を流したいと思いますので、何かあれば協力できるところは一緒にやっていきたいと思っています。

それでは、2 問目の質問に行きたいと思いますが。

【議長 山本 文男】

2 問目の発言を許します。

【 7 番 那 須 富 重 】

それでは次に、住宅政策についてということであります。

コロナ禍の中にありまして、地方にとって唯一明るいとも言える情報があります。それが都会を出て地方に移住を希望する人たちが増えてきている。その中でも美郷町に興味を示す人たちがいるけれども、直近の情報で住宅について、去年は五十数件の問い合わせに対して入居可能な物件が二、三軒しかないという話を聞いておりましたけれども、現在、どのようになっているのか、お伺いします。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

コロナ禍の中において、そういう世の中の動きが出てきたと。ありがたいことだというふうに思っております。

昨日も言いましたように、移住相談件数が非常に増えているということでもあります。平成 28 年度で 25 件あったのが令和 3 年度 2 月末現在で 159 件の相談を受けていると。以前も宮日のほうに担当が美郷町のオーダーメイドという形でやっている。

住宅と仕事というものがセットでなければなかなか定住も難しいかなあというふうに思っておりますが、今、可能な空き家といいますか、それは 8 軒ということがあります。売却が 6 軒と賃貸が 2 軒ということですので、非常に少ないということでもあります。

空き家の希望者というか 46 世帯くらいあるということなんです、そのうちで

8件くらいしか使えるような空き家がないというのが実態ということでありますので、まだまだしっかりとした空き家対策にはなっていないというのが現状かなというふうに思っておるところでございます。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【7番 那須 富重】

議長。

【議長 山本 文男】

7番、那須 富重議員。

【7番 那須 富重】

今日も先ほど、控室のほうで話しておったんですが、この美郷町も1年に100名から120名くらいの人口減少が進行しております。そういった本町ですので、この美郷町の「まち、ひと、しごと」ですかね、地区戦略のほうでも2040年に人口を3,600人を目指すために、移住定住促進のためということで、目標を掲げてやっておりますけれども、このためにも今はいろいろありますけれども、やはりこの住宅政策は医療提供事業と併せて、本当に最優先課題だと考えておりますが、いかがですか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

医療とやはり人口を増やしていくということに関してやはり住宅が必要だというふうに思っております。それも空き家を利用するという形です。

やはり空き家をしっかりとしたものでリフォームして、町が購入して、そしてそれをリフォームして住宅として貸し出すとかいろいろな形で考えていく必要があると。

ですので、公共住宅も大体全て98%くらいが使われているという話でありますので、なかなかこれも維持しながら空き家を改修しながら住んでいただくという形をとったほうがいいかなあというふうには思うところです。

やはり人が増えるということは、家がなければなかなか難しいということですので、本当にこの空き家対策、住宅対策になりますけど、何か本当に難しい問題ですけど、何かいい知恵をいただいて、それを改修して住宅として使用していただくような政策ができないかなというふうには思うところです。

以上です。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【 7 番 那 須 富 重 】

議長。

【議長 山本 文男】

7 番、那須 富重議員。

【 7 番 那 須 富 重 】

企画情報化のほうで地区別の定住戦略が進行中で、先日、2 月中ですかね、町内の 15 行政区の担当が集まって徹底した人口や地域体制の診断を基に、地域の住民自らが人口減少対策が目的の戦略を策定していくということで、北郷のほうであったようでございますが、非常にいいことだと思います。

私も、ちょっと 28 日議会ということで、たしか 27 日だったと思うんですが、ちょっと行けなくて残念でした。そのときの話をできれば聞きたかったんですけど、また後日でもいいですからその成果について聞かせていただければと思います。

こういう移住者を受け入れるためには、まず住む家が本当に必要であります。話は南郷村のときに遡りますけれども、地域の農家の方が、息子が定年を迎えたら田舎に帰ってきて農業をやりたいと言うから、今、住んでいる山際にある水屋敷を出て、広く農業をするのに便利なところを宅地にして二世帯住宅を造るために、農地の宅地転用の申請を何度も試みたが認められなかったという事実があります。

これは私がそのお父さんのほうから直接聞いたんですが、結果的にこの方はもう怒って、息子さんに「もう帰ってこんでもいい」と言って、元の水屋敷の家を改修して奥さんと 2 人で暮らしております。

さらに、これは県外に行かれている看護師さんをしている独身の娘さんがいるんですが、「自分が田舎に帰って親の面倒を見る」と言っておりますけれども、親御さんのほうが「もう田舎には帰らんでいいから、宮崎辺りに家を探して、そこに住め」というようなことも言っております。

この話を聞いたときに、町長、どんなですか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

そういう感覚というか気持ちで住んでいるということ自体が何かやはり寂しいなあと。やはり行政がもう少しそこ辺を感知しながら、住みよいまちづくりという部分をしっかりと考えていかなければならないなあとというふうに思います。

制度が悪いのか法が悪いのかいろいろあるかもしれませんが、その中で、もう少しその人たちの意に沿うような方向性を見つけていかなければならないというふうに思いますので、初めから「もういんで来んでいいわ」とかそういうことにならないようにやっていきたいなというふうには思います。

そしてまた、昨日も言いましたように、小さいときから美郷を愛する心というか、そういうものを持って大きく羽ばたいて、また帰ってきてほしいと、そういう部分

は非常に思うところでありますので、教育の面での美郷科というかそこ辺は大事なところかなというふうには思っております。

以上です。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【7番 那須 富重】

議長。

【議長 山本 文男】

7番、那須 富重議員。

【7番 那須 富重】

こういったことがありましたものですから、数年前に県への要望活動のときに、「過疎化が進む地域ではもっと自由に住宅建設ができるように、宅地の転用申請を認めていただきたい」と、直接、私は知事のほうにも申し上げました。

ところが、このときの知事はまだその状況がよく分からなかったのか私の説明が不足だったのか、「とにかく空き家を先に利用していただきたい」という話でしたね。

その足で同じく農政水産部の部長にも会いまして同じようなお願いをしたところ、その回答が、「部下にはあまり厳しくするなと言ってるんですが」ということでございました。

現在は、あれからもう数年たってますけども、現在、河川の堆積砂利対策が大変、追い風になっておりまして、宅地の造成にも堆積砂利が非常に活用されております。最近では既に完成しているものもありますけれども、着工中を含めて現在、私の知っている限りでは4件の宅地の転用が認められておりまして、今、着々と進んでおります。

こういった住宅建設条件の環境改善が進んでいるところでありますけれども、新たな町営住宅の建設を含めて新築の補助、解体費用の補助など、今後の住宅対策を今後はどのように進めるのかをお伺いいたします。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

今度の予算に住宅関連の予算がかなり上げてあると思います。

大きなもので言えば、ちょうど林業大学校を造ったような二階建ての若者向け用を南郷のほうに造ったらどうかということで予算を。

それと今後、「こういう制度があるからこういう住宅を造っていきましょう」ということで、今度の予算やらに入れてますので、そこいら辺をしっかりと聞いていただいて議論していただきたいなあとというふうには思っております。

ですので、そういう形をとりながらやっていくべきだというふうに、本当に空き

家を利用しながらと、そしてまた新しく建てながらという中で、このコロナ禍で変わった風景がこちらのほうにそういう若者が、また若者以外の定住促進が図られればそれに越したことはないというふうに思っております。

ですので、先ほど、地区別定住戦略といって、24地区あるから、これは1年に1世帯ずつ、その地区に住んでいくと24世帯になるということで、その次もまた1世帯ずつという話なら当然、家が足りなくなるという話になりますので、そこ辺を見据えた中で、しっかりと対策を講じていきたいと思っております。

以上です。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【7番 那須 富重】

議長。

【議長 山本 文男】

7番、那須 富重議員。

【7番 那須 富重】

ぜひ積極的に進めていただきたい案件だと思います。

それから、現在、町内には町営住宅はあるわけですが、この同じ町営住宅に10年、20年と住み続けている方がおられます。本人たちが言うには、「できれば持ち家として住み続けたい」と。「分譲ができるのであれば、ぜひ購入したい」という方がいますけれども、この件についてはいかがでしょうか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

現にもう売却した住宅もありますし、今、それをどういう形で造ってるのかという部分もあるんですけど、ある程度、年月が経てばもう売り払ってもいいと、私は考えております。

ただし、法的にクリアできる住宅であればという前提はつくんですけど、そういう形で考えております。

ですので、そういう住宅を買ってもらって、買えばもう出ていくことはありませんので。そしてまた違うところに公共住宅を設けるという形で行けば、非常に効率的になってくるのではなかろうかと。

ある程度、年月がたつと修繕費も増えてきますので、そういうことを考えれば、購入したいという人がおれば、もうそちらのほうに譲って違う場所に新しく建て替えたほうがいいのかあというふうに思いますので、空き家と公共住宅とやはり別個の考え方でやっていく必要があるというふうには思っております。

以上です。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【7番 那須 富重】

議長。

【議長 山本 文男】

7番、那須 富重議員。

【7番 那須 富重】

こういう住宅は長々と住んでいると愛着も湧いてきます。また、子供たちが育ち上がってよそに出ていって、よそに家を建てれば、この家がもうなくなるということであればそちらのほうに吸収されて人口がそちらのほうに流出するということも大いに考えられます。

先ほどから言いますように、とにかく人口減少対策、これの一番の問題は住宅の供給ということでありましょうから、ぜひお願いしたいと思います。

それでは、3問目の質問に行きたいと思いますが。

【議長 山本 文男】

3問目の発言を許します。

【7番 那須 富重】

3問目は、特A米の価格向上についてということであります。

昨日からの一般質問でも称賛する声が、何人もの方が相次いで発言されておりますが、昨年もチャレンジしました特A評価米の排出の圃場の米が今年3月5日ですかね、令和元年、令和2年、そして令和3年産と3年連続で日本穀物検定協会の食味ランキングで最高評価の特Aを取得したというニュースが、これは私のほうに県議のほうから直接、来ましたので、いち早く情報が入ったんですが。

本当に本人は2月20日から下旬にかけて報告があるというふう聞いておったけれども、連絡がなくて今年は駄目だったんじゃないかということで、非常に、私が後で連絡したときには落胆をしておられました。そのときの第一声は、本当にもう、向こうで。

本当にうれしくて、電話の向こうでも泣いておられました。2回目の美郷町が特A米のこれを取ったときに、宮崎県庁のほうにお礼に伺ったんですけども、そのときに、えびの市の向こうの担当の方が水稻部会の部会長で高牟禮さんという方が来られてたんですが、この方がいろいろと苦労話をされたんですが、本当に命がけでこの米を作りましたということで報告をされておりました。いまだに私も脳裏に焼きついておって、この大事さというか、これをやはりもっと私たちは分かってやらなくちゃいけないんじゃないかという気がするんですね。

これは西北中山間地ということで、西北の3村4町をカバーする、五ヶ瀬、高千穂、日之影、椎葉、諸塚、美郷、西米良まで、この7つの自治体がそういう特Aということで誇れる成果ですから、これはほかの自治体は本当に喉から手が出るくらい欲しいんですね。何とかこれを、まずはここでたたえていただいて本当によかったということで。これが大きな看板になって、今から売り込むことができるわけで

すから、何とかこの辺のところをしっかりとたたえていただきたいと思います、いかがでしょうか、町長。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

本当にうれしいことであります。命がけで作った米がこのように評価されたということで、3年連続同じ方が同じ場所で特Aを取ったということであります。

夏の暑い時期に視察に行ったときに、議員も一緒に行かれたんですけど、いろいろな御苦労があるということで、やはり今、スマート農業の中で水管理とかいろいろな形をやっているという話の中で、大変な御苦労だと思って、生産者の方には頭が下がる思いということで、議員からも喜びのメッセージが来てました。私も本当によかったなと。

えびのとJA日向という話になりますが、もうちょっとその温度差がというか、この議会が終わったら組合長に会いたいというふうに思っております。この米をどういうふうに考えているのかという話をしたいということであります。

うちのほうで、今回は1等米につき600円ですかね、補助をしてるということで、どんどんどんどん農協の買い値が下がって来れば、1等米8,000円という部分で考えてると、どんどんどんどんうちのほうが出していかなければならないという話になりますので、それでは農協さんはという話にしていきたいと思っております。

今月の末、31日ですけど、知事の表敬訪問ということで、この特Aの受賞ということで報告に伺いたいと。ですので、まだ何時になるのかとかそういうことははっきりしてませんが、決まったらまた議員の方全員とはいきませんが、このコロナ禍でありますので、それとJA日向ということで、報告をしてと。

やはり特Aを3年連続取ったというのは事実なんですから、これが価格に反映されていかんと何にもならないという話は言い過ぎですけど、やはりそこが問題だと。やはり価格、米農家さんがやはり手取りが多くなるような工面をしていく必要があると。それがどういう形でと。全国的に今、米余りという部分でそういう形になってますけど、やはりちょっと違った動きをしていてもいいんじゃないかという気がしておりますので、何かそこ辺をみんなと一緒に米の価格を上げていきたいというふうに思っておりますので、そういう話も含めて農協さんをお願いしたいということであります。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【7番 那須 富重】

議長。

【議長 山本 文男】

7 番、那須 富重議員。

【7 番 那須 富重】

本当、今、町長がおっしゃったとおりで、私もその辺を聞こうと思ってたんですが、特 A の評価になったからといって J A の米の買い上げ価格が上がっていないと。どこに問題があるのかというふうにあったんですけども、これにはやはり今の米余りの現象とかで私なりに考えたんですけど、町長は同じような考えでしょうか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

確かに国のほうはそういう形になって動いているということでもありますけど、今から先、昨日も言いましたように食糧危機というか、そういうもの、それと日本の主食ということを考えたときに、やはり米はしっかり置いとかんといかんという基本的にそこが足下にあるというかスタンスですので、やはり米をどんどんどん今、飼料用米とかそういうほうに転換していった部分もありますけど、作らなくなるとやはり風景が変わってしまうということも、環境がおかしくなるという部分も非常に大切な要素ですので、何とかしてそういう作る意欲を持たせるがために、そういう米の価格という部分を考えていきたいと。

ですので、昨日、変なことを言いましたけど、「生産者米価と消費者米価は違っていいじゃないか」と、「米を国が高く買い上げて安く売ってください」と、「また元に戻してください」というような感覚では、私はいます。

以上です。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【7 番 那須 富重】

議長。

【議長 山本 文男】

7 番、那須 富重議員。

【7 番 那須 富重】

本当に今年は 3 年連続の特 A 米の大きな快挙ですから、独自の販売ルートの開拓も視野に入れていくべきではないかというふうに私は考えているんですね。やはり今のところではこの宮崎県、特にこの美郷町なんかは、持っていく先は公というか団体に対しましては個人で売買するか J A のほうに納めるかしかないわけです。その買い上げ価格が販売価格ということになるわけですから、そこが動かないことには生産者には還元されないということはもうはっきり分かっています。

庭先に車を乗りつけて買っていかれる方のほうが、値段的には安定して手数料も

ないし高いんですね。実際にはそういうところで売られている方も結構、いるわけですね。

それと、私も上京した折には、努めて一番の日本の真ん中、日本橋とか銀座のそういう大きなデパ地下に行って、米がどのくらいの価格で売られているのかということ調査をしております。行くたびに私は行くんですが。

そのときに、大体、売られているのが、去年の11月に2年ぶりに行ったときに見ましたら、5キロで6,900円で売ってます。これがどこの米かと言いますと、ほとんど東北で、青森、秋田、山形、岩手、それから北陸の新潟辺りの米が売られております。

この5キロで6,900円、これを30キロに換算しますと4万1,400円です。こちらのほうの農協の買い上げが7,400円として、600円を町が足すわけですから、仮にこれが半額として2万であっても十分に採算が乗るわけですね。

これは何が違うのかと私は考えるんですけども、東北は中央のほうに持っていく。宮崎はJA止まり、せいぜい宮崎県で終わってると。ここのところに売り込み先によって価格がこれだけ違うんじゃないかというふうに考えているんですね。

はっきり言いまして、11月頃の収穫直後の米を食べてみますと、特にこの特A米なんかはもうほとんど遜色はありません。私も関東のほうに13年間住んでいたことがあって、そのときに車を貸した県の職員から帰りに持ってきた魚沼産の米をもらって食べたんですけど。今、考えてみれば、決して負けるとも劣らないような味です。これはもう自信を持ってきて持ってきてくれたんですけども、今、考えてみれば、確かにおいしかったんですけども、それに匹敵するくらいの味です。これは収穫直後の米ですから、私も自信を持って言えるんですけど。

だから何が今、足りないのかというのは、やはり自分たちがそこに売り込みに行くことが大事だと思うんですね。美郷町もこのコロナ前には川崎とか横浜とか池袋のほうですかね、中野課長なんかが時々行かれてました。そういう加工品とかいろいろなものを売り込みに行っておりました。そういった売り込みの商品の中にもこの米もやはり入れて、少しずつ知名度を上げてブランド化を進めていくことが必要じゃないかと思います。新宿にKONNEもありますし、いろいろとイベントをやれば収穫の時期に炊いて食べさせる。コロナ禍で今はできないかもしれませんが、そういった取組も頻繁にやっていくと。それによってこの美郷町という美郷米という名前をブランド化していくというのが非常に大事だと思います。いかがでしょうか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

議員おっしゃるように、やはりそういう努力をする必要があるというふうに思うところであります。

豊見城市に宇納間米として出しておりますが、それが定着するのにどのくらいかかったかという話でありますけど、結構、長年、年数がかかっていることでもありますので、やはりそういう毎年、毎年、そんなイベントをしながら売り込んで

いく必要があるかなあと。

ですので、特A米を取った美郷町産米という話で出せば一番いいんですけど、何かそこ辺ももどかしいところがあって言えないと。今さっき言ったように7町村、そこが西北中山間地域の米ですよという話になると、どうも違和感があるという。

「違和感」というか、美郷町産米が特Aを取ったということが一生懸命、言えないという部分でもどかしい思いをしますが、議員おっしゃるように、そういう努力をしながらブランド化を図ると、宮崎県的美郷町の米はおいしいねというような形になっていければと。それも農協さん、J A日向の振興協会、ひむか米の、そことタイアップしながらやっていく必要もあるかなというふうに思っております。

本当にせっかくすばらしい米を生産者が作ってるというのは現実でありますので、事実でありますので、そういう方向で取り組みたいというふうに思っております。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【7番 那須 富重】

議長。

【議長 山本 文男】

7番、那須 富重議員。

【7番 那須 富重】

今、やはり全ての田んぼを見てみますと、「今まで」と言ったほうがいいでしょうけど、やはりおいしい米ができる田んぼ、水田でも飼料米、W C Sなんかを作ってる人もいるんですね。それはやはりもちろん牛の飼料を作るのも本来の目的でしょうけれども、ただこれはやはり手が回らなくてそのままになってたりとかという話もちょっと聞いたりしますので、そういうおいしい米ができる場所は誰もが競って「そこは私が作るんだ」というそういう機運が高まるような取組が必要だと思いますね。そこにはやはり個々の価格の向上ということが非常に大切になってくると思いますので、もうちょっと頑張っていただきたいんですが、どうでしょうか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

やはり価格に転嫁していくことが、やはり生産意欲につながるということになりますので、やはりどうにかして高くで売りたいということは共通の思いでありますので、議員皆さんと協力してそういう体制をつくっていききたいなあと思っております。

ちょうど価格というか、NHKで魚沼のコシヒカリですかね、棚田で作っているドキュメンタリーがありましたけど、やはり涙が出てくるような苦労ということで、やはりそういう思いの中で生産者は頑張っているということでもありますので、こち

らもそれに応えるがために頑張らなければならないというふうに思っておりますので、頑張りたいと思います。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【7番 那須 富重】

議長。

【議長 山本 文男】

7番、那須 富重議員。

【7番 那須 富重】

本当にこの特A米ということで私たちも直接、知ってます所以说うんですが、この特Aのサンプルを提供された方は本当においしい米の作り方を知ってます。私もこれを見習って今からやらずにいい。これによって、またさらにおいしい米はできるはずですから、そういうことを手掛かりに、後は自分たちがおいしい米を作る技術を磨いて安定した米を作る技術の習得に頑張っていって、このブランド化に何とか貢献したいと思っておりますので、よろしくお願いします。

これで、質問を終わります。

【議長 山本 文男】

これで、7番 那須 富重議員の質問を終わります。

【議長 山本 文男】

ここで、10分間の休憩とします。

再開を11時10分とします。

(休憩：午前10時58分)

(再開：午前11時08分)

【議長 山本 文男】

休憩前に引き続き、一般質問を再開します。

次に、5番、中嶋 奈良雄議員の登壇を許し、1問目の発言を許可します。

【5番 中嶋 奈良雄】

議長。

【議長 山本 文男】

5番、中嶋 奈良雄議員。

【5番 中嶋 奈良雄】

最初に、断っておきますが、先日兒玉議員、今日那須議員が報告したことにより、私の質問がかぶることがありますが、どうか御了承願いたいと思います。

田畑の耕作放棄地の対策について。

町内の田畑については、耕地整理が進み、近年はワイヤーメッシュ等による鳥獣害対策もとられている。

そのような中で、地域においては、耕作者の高齢化と後継者不足により放棄地が増えてきているのが現状である。町として放棄地の対策を具体的に考えているのか。

また、農業の法人化は考えていないか伺います。

【議長 山本 文男】

町長の答弁を許します。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

議員の質問にありますように、放棄地は高齢化、後継者不足によって年々増え続けております。毎年、農業委員会が実施している農地利用状況調査でも数値に表われているところでございます。

農業委員会では、この放棄地の所有者の利用意向調査を行い耕作を促しております。耕作ができない場合は、周辺の農家へ耕作のあっせんを行っているところでございます。

現在、美郷町内では40の中山間集落協定が中山間地域等直接支払制度を活用しています。1期5年を区切りとする本事業は、現在第5期対策を実施中ですが、この5期対策の中間年である令和4年度に集落戦略を作成しなければなりません。この集落戦略とは、協定農用地の将来像並びに協定農用地を含む集落全体の将来像、課題、対策について協定参加者が徹底した話し合いを行い、10年先を見据えた目標地図を作成することにより、協定参加者の合意形成を図るものでございます。

また、中山間地域直接支払制度の対象外地域も、平成24年度から国が取り組んでいる「人・農地プラン」が、現在行われております通常国会で地域農業経営基盤強化促進計画（地域計画）として法定化されることとなっているため、集落戦略同様の目標地図を作成しなければなりません。

放棄地対策については、これらの制度により、まずは集落で話し合いを行い、集落で検討していただく取組を行っていききたいと思います。

農業法人については、令和元年度に、町、JA日向、JAファーム、普及センター職員によるプロジェクトチームを立ち上げ検討を行ってまいりました。町の振興作物の産地の維持、農家ニーズの反映、耕作放棄地対策等を勘案し、茶、栗、畜産の3つの部門に絞り、経営シミュレーションを作成し、自走できるか、人員の確保は可能か等、検討を行った結果、農業法人設立を断念した経緯がございます。

本町のような中山間地域の農業法人は、全国的に赤字傾向にありますが、美郷町では既に基盤の整った農作業受託組織等がございます。この組織の支援、充実を図ることが地域の活性化にもつながり、農業生産活動が継続できる体制づくりにも寄与するものと考えるところでございます。

以上です。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【5番 中嶋 奈良雄】

議長。

【議長 山本 文男】

5番、中嶋 奈良雄議員。

【5番 中嶋 奈良雄】

確かに中山間地域等直接払制度がありますが、放棄地化を未然に防ぐ活動状況にしましても高齢化が進み、地域ぐるみで保全形態も限界を迎えつつあります。

その中で、受託組合活動も高齢化のためできなくなっているような状況であります。その辺りを町長はどのように考えていますか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

ずっといろいろな問題に影響が出てくるという部分は、やはり人口がいないという話になってきます。担い手がいない、後継者がいないという問題が全てに影響してきておりますので、これを皆さんとともにどう解決していくかが課題だろうというふうに思っております。

昨日も言いましたように、兒玉議員のときに、中間管理機構という機構を何とか利用できなという部分で考えております。

やはりいろいろな形の中で組合をつくる、農業法人なら農業法人をその地域がつくっていくということになれば、そこには一生懸命、こちらも手だてをしていきたいというふうに思うところであります。

今度は担い手が何人か集まってこういう形でやりたいということであったとき、農地の集積を図るという意味で、大きな団地を任せられるような形になれば、みんなが取り組むということではなくても、その遊休農地が解消していくというような形になれば、そういう形でもよかろうというふうに思っております。

先ほど、那須議員の、やはり価格に反映されていけば、また作り出すという話にもなりますので、やはりそういうことも大切でありますし、いろいろな要素が絡み合ってきておりますので、一つ一つ何が一番特効薬になるのかという部分を精査しながらやっていきたいと。

ですので、簡単に法人をつくれば全てが解消するかという話にはならないというふうに私は思いますので、美郷ならではのその形態、それを皆さんとともに模索していく必要があると、そのように考えておるところであります。

以上です。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【5番 中嶋 奈良雄】

議長。

【議長 山本 文男】

5番、中嶋 奈良雄議員。

【5番 中嶋 奈良雄】

確かに高齢化が進み第1次産業は大変な時期に来ていると思われませんが、その対策はどのようにお考えになるのか伺いたいと思います。

町長は先日、「何かしないより何かしたほうがよい」と言われました。その「何かしたほうがよい」というような考えがあるようですが、その何かありましたら伺いたいと思います。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

第1次産業の振興は、やはりその地域に合ったものを作っていくというのが原則かなというふうに思うところであります。

ただ、いろいろな意味でこの気候変動という中で、今まであった作物が本当にこの地域に合ってるのかという部分も若干ちょっと出てきてるのかなあという気もしておりますが、そこは置いとって、やはり今まであったものをしっかりと下支えをしていくということが一番大切なあというふうに思っております。

米にしろ栗にしろシイタケにしろ一番今までやってきた産業ですので、そこにテコ入れをするとか、補助をしたり、苗木の補助をしたりしっかりと生産体系とか体制、自分でまたしっかりとした管理をしていくという体制の下にやっていただきたいなあというふうに思っております。

そして、また施設園芸、畜産は、ある程度、軌道に乗ってると思っておりますので、またそこ辺も見計らって、もう少し増頭ができないかとか、そういうふうに仕掛けていきたいというふうに思っております。

新しい産物を作るよりか、今あるものをしっかりと支えていくというほうが、あれもこれもやってもなかなか難しいという時代ですので、やはり絞り込んだ今まで永遠と続いてきた農産物をしっかりと維持していくために、町がいろいろな対策を打っていくと。いろいろな形の中で議員さんのお知恵を借りたいというふうに思っておるところでございます。

以上です。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【5番 中嶋 奈良雄】

議長。

【議長 山本 文男】

5番、中嶋 奈良雄議員。

【5番 中嶋 奈良雄】

私が思うには、ここ5年、10年間で、さっきも言われましたように人口ががたっと20年後頃には3,000人になる可能性があると思います。そうした場合にはいろいろ産業を盛り上げていっても、そこに作業する人がいなければ産業ができなくなるという恐れがあると思います。私も70歳です。5年したら75歳です。それ以上の高齢者がほとんど見受けられます。そのことを考えると、やはり法人化とかそういうものを立ち上げないと、産業が止まってしまうという恐れがあると思います。

農業収入がなくなっている現代、そういう高齢者が今頑張っていますが、5年、10年先を考えると、そういうことができなくなってしまう。そのことを町長はどうお考えでしょうか、伺います。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

確かに昨日の一般質問の中で、高齢者によって支えられているというのは現状かなというふうに思っております。ですので、65歳以上が主力になっているということになっております。

ですので、これから5年後、10年後、その人たちがそれだけ年を重ねるわけですので、「生涯現役」と言いながらも、やはり生産性は落ちてくると。そのためにどうするかという話ではありますが、農業法人を設立したから全てが解消し、全てがうまく回るかというふうには思っておりません。いろいろな法人を全国、見てみますと、やはり経営が非常に厳しいということでもあります。

なぜそうなるのかという話になりますが、経営を立て直そうとするがためにいろいろなものを入れてくる、取り込んでいくということで、それが負の連鎖になっていっているということでもあります。

ですので、そこまで行かなくて、やはり今ある組織とか、そういう担い手、後継者をどのように見つけていくかという対策の中で、1回やったほうがいいのかどうかと。

先ほど、国の人・農地プラン、いろいろな形で中山間地域の図面を作るということでありますが、その中で、しっかりした答えを出していければいいかなと思っております。どういう形が町に合うのかということ、町自体そしてみんなと農業者と協議しながらやっていく必要があると。

ですので、24地区中山間地域があると。40ですかね、ありますので、その地域にやはり出かけていって、どういう形がいいのかという話を聞きたいと思っております。ですので、例えば、全部が一緒という形にはならないでしょうから、その地域、地域の特性もあることですし、やはりその中で話し合って、その地域に合う形態というかそういうものが出来上がれば、それに越したことはないというふうに今のところは思っております。

以上です。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【5番 中嶋 奈良雄】

議長。

【議長 山本 文男】

5番、中嶋 奈良雄議員。

【5番 中嶋 奈良雄】

私は、町外に出かけることがよくあります。その中で、町外の人が「美郷町に田を持っていて、もう放棄地になっているから、どんなかしてくれんですか」という相談を何件も受けます。「どんなかしてくれんですか」と。返事に困ることがあります。

これは、放っておくわけにはいけないと思います。誰かがどんなかの形でしなければいけない対策であると、私は考えます。米だけではなくほかの作物を作ったり、例えば、杉の苗作り、かんしょのブームですのでかんしょを作ってみたりとか、ソバを植えてみたりとか、牛の飼料、トウモロコシを作ってみたりとかいろいろな方法、手段を考えながら、放棄地をなくしていく方法もあると思いますが、そういうことは町長はお考えはないでしょうか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

作物でそれぞれの地域に合ったという部分で何をするかというのは、そういう生産者が集まった中でいろいろな形で聞いていこうかなあというふうに思っております。

ただ、やはり価格に反映しなければならないという話であります。

それと、価格と土地の回転率というか、それが悪いっちゃないかなあ。裏を作っていないという部分で、裏を作ってるのは畜産農家くらいかという話で、イタリアン等の飼料で。

ですので、田にすれば裏作というか、そこで何を求めるかと。そこで何を稼げるかという話にもなってくるのではなかろうかと。畑にしてもそうなんですけど、そ

ういう形の中でまだまだ稼げるものはあるということでありますので、やはり裏作、そういう部分もしっかりと考えていっていいのではなかろうかというふうに思っておりますので、40の用地管理組合といいますか、中山間地域の組織に入って、本当に膝を突き合わせて、「どんげするや」という話をしていきたいなあというふうに思っております。

非常に地区別定住戦略もなんですけど、またそういう話の中でもやはりそういう部分も出てきておりますので、やはりそれを1つにまとめていくということが、その地区戦といいますか地区別定住戦略の大きな仕事になってくると、大きな計画になってくるといふふうに思っておりますので、全てをそこにつなげていきたいなあというふうには思っておりますので、全てはそこにつなげていきたいなあというふうには思うところであります。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【5番 中嶋 奈良雄】

議長。

【議長 山本 文男】

5番、中嶋 奈良雄議員。

【5番 中嶋 奈良雄】

入下地区に大分宇目町から移住してスイトピー作りに取り組んでおられる方がいます。町長は、その人と話し合いをしたことがありますか。

また、その人は、北郷は耕地整理、被害が少ない、気温の温度差が。

【議長 山本 文男】

中嶋議員、それは通告外の質問だと思いますが。

【5番 中嶋 奈良雄】

すみません。通告外ということですね。分かりました。

「今から5年、10年かかる作物では回転が悪いから早い作物などがよい」と、町長は答えました。私もそう思いますが、結局、今の農業は収入が本当になくなってきています。だから生産体制が悪くなって、高齢者の人が何も楽しみもなくなってきています。収入があれば取りかかると思うんですが、現在は年金だけではもう生活が成り立たなくなってきました。その中で、やはりおかず代でもなるような作物を考えていけば、高齢者の方も元気が出、また欲が出てくると思います。

四国の例を言いますと、葉っぱ産業ですけども、葉っぱ産業は高齢者の方が一生懸命、取りかかっています。春には山菜を採り、腰を曲げて、山菜がなくなったら葉っぱを採りながら腰を伸ばしていくと。そうしているうちに腰が伸びて特老がなくなったという話を聞いてます。

そういう身近にある作物から取り組んでいく必要もあると思います。そこ辺のところも町長は十分、踏まえながら考えていると思いますが、お考えを伺いたいと思います。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

先ほど、通告外と言われた入下のほうなんですけど、行って話したことがあります。

今、スイトピーそれから今後はほうずきをやりたいと。「何でほうずきね」と言ったら、「6か月で大体できる」と。2月に植え、3月に植え、7月、8月という形になってますので、勝負が早いと。ですので、被らないという部分もあるんでしょうけど、そういう形でやっていきたいということで、「頑張ってくださいね」という話をしたことがあります。

ですので、そういう人たちが出てきてくれるということは本当にありがたいなというふうに思っております。

よく言う「年金プラス100万」という標語があるんですけど、この100万円を高齢者の方が稼げるかという話になると、稼いでいるんじゃないかなと思うときに私はあります。一生懸命やって、牛1頭、2頭を飼ってやっている人も頑張っておりますので、今ちょっといろいろな飼料が高騰しておりますので、ちょっとコスト高かなあということはあるんですが、そういう方で頑張って「年金プラス100万」という部分があります。

四国の「いろどり」ですかね、これは元のJA職員が京都の料亭やらに行っているいろいろな研究をして、そういう形で四季折々の葉っぱを集めて、非常に料亭からうけた、「料亭からうけた」というか、卸屋さんですかね、そのうけたやつをすぐ集められる体制にして、子供に家を造ってやったり、高級車というか車を買ってやったりしてるという話であります。本当にすばらしい取組であります。

うちにできないかなというふうに思うときに、それだけのいろいろなものがあるかもしれません。変な話でもありませんけど、アロマオイルということで、クロモジやらを利用してと。やはり眠っている資源がいっぱいあるということでもありますので、その生産者一人一人に応じたものを作っていただくということが肝要かなあというふうには思っております。

ですので、今、坂本地区ですか、ちょうどこちらから下りていったところに直売所がありますけど、販売所が。非常に売れてるということなんです。もう全然、残らないと。その地域の出している方々と話すと、「こんげ売れるものとは思わなかった」ということで、だからどんどんどんどん生産意欲が湧いてきたということで、「微々たるものですけど」という話ですね、一日は。それが1か月続くと、結構な金になってくるという話で、本当によかったと。

やはり元に戻るというか、そういう形でもやってるグループもありますので、やはりその土地を利用した中で、そういうことも考えられるということですので、本当に話を聞いておって、その人たちが何か生き生きしてるというか、そういう感じを受けましたので、町としてもいろいろな体制の中で絡み合う部分も出てきますので、一つ一つ整理をしながらそういう形でやっている人たちも支えながら、やはりこの担い手、それと後継者そして遊休地を出さない、そしてみんなが頑張れる体制づくりができるかということを真剣に考えていく必要があると、本当にそう思って

おるところです。

本当に難しい問題が医療から住宅からこの土地問題、出てきておりますので、本当にここが、手を引っ張りながら知恵の使いどころだというふうに思っておるところであります。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【5 番 中嶋 奈良雄】

議長。

【議長 山本 文男】

5 番、中嶋 奈良雄議員。

【5 番 中嶋 奈良雄】

合併して南郷、西郷、北郷と3地域に分かれましたが、その美郷町で1つの作物を一遍に作ろうとすると、やはり無理があると思います。

人間性、地域性、土地、水、気温も全く違う中で、1つの作物を作ろうとするとどうしても無理が行くと思います。

やはり地域に合った農作物を作っていったって、それを町の産物として取り上げていく必要が私はあると思います。そのためには、地域課の職員の人たちと相談しながら、今から先はやっていく必要があると思います。その点、町長はどんなお考えでしょうか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

その産物というか、それについては何を作っているかということと、今から何を作るかということを考えたときに、やはり生産者が決めることだと思っております地域、地域で。

ただ、今さっき言ったのは、この旧村時代にお茶とか米とか牛とか栗とか、それはずっと大体、定着してきた産物だという典型で、それはそれでしっかりとやっていく必要があるという話で申し上げたところであります。

これから何をするかという部分は、本当にこの生産者が嫌いなものをしてても話にならんし、でもやはり地域的、地理的、気候的そういうものが噛み合ってきますので、そこは生産者、団体、それに委ねたいと。それをするがためには、やはりしっかりと科学的根拠とかいろいろなものを普及センター等々に指導いただいて、それを下支えするのが町の役目かなあというふうに思っておるところです。

以上です。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【5番 中嶋 奈良雄】

議長。

【議長 山本 文男】

5番、中嶋 奈良雄議員。

【5番 中嶋 奈良雄】

分かりました。今から先、私たちがしなければならないことは次世代に安心安全なふるさとを残してあげることが、私たちの仕事だと私は思っています。帰ってくるふるさとを、どんなかして残してあげると。今から先はこのコロナ禍時代、食糧難の時代、いろいろなことが予想されます。

その中で、この美郷町は本当に良いところと私は思っています。子供たちもそう思っていると思います。そのことを私たちがふるさとを残してあげることが、一番の私たちの仕事だと思っていますところ。

私の質問は、以上で終わりたいと思います。

【議長 山本 文男】

これで、5番、中嶋 奈良雄議員の質問を終わります。

【議長 山本 文男】

以上で、本日の日程は全部、終了しました。
本日は、これで散会いたします。

【事務局長 小田 広美】

「一同・起立・礼」・・・お疲れさまでした・・・。

(散会：午前11時38分)